

# 奈良県における 大学の振興について

平成30年1月22日  
ふるさと知事ネットワーク第11回知事会合



# 奈良県における大学の設置状況

・歴史文化資源が豊かな奈良の特性を活かした、人文科学・観光分野に強みがある一方、理工学分野の学びの場は不足。

## 人文科学

- 奈良女子大学文学部
- 奈良大学文学部
- 帝塚山大学文学部
- 天理大学人間学部、文学部、国際学部

## 社会科学

- 帝塚山大学経済学部、経営学部、法学部
- 奈良大学社会学部
- 奈良学園大学ビジネス学部、情報学部

## 観光

- 奈良県立大学地域創造学部

## 理学

- 奈良女子大学理学部

## 農学

- 近畿大学農学部

## 保健

- 奈良県立医科大学医学部
- 畿央大学健康科学部、助産学専攻科
- 帝塚山大学心理学部
- 天理医療大学医療学部
- 奈良学園大学保健医療学部

## 教育

- 奈良教育大学教育学部
- 畿央大学教育学部
- 帝塚山大学現代生活学部
- 天理大学体育学部
- 奈良学園大学人間教育学部

## 家政

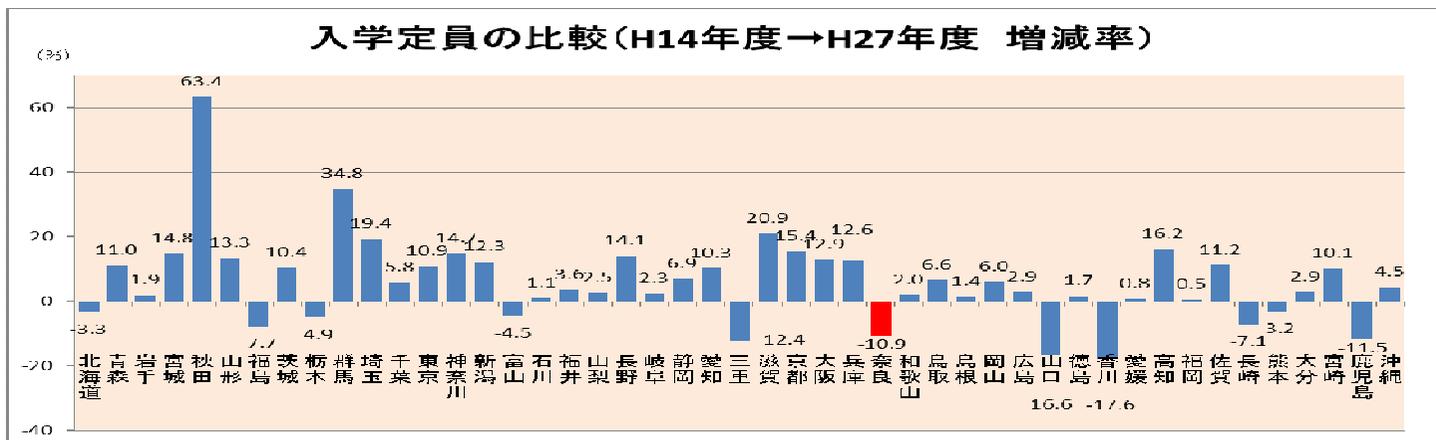
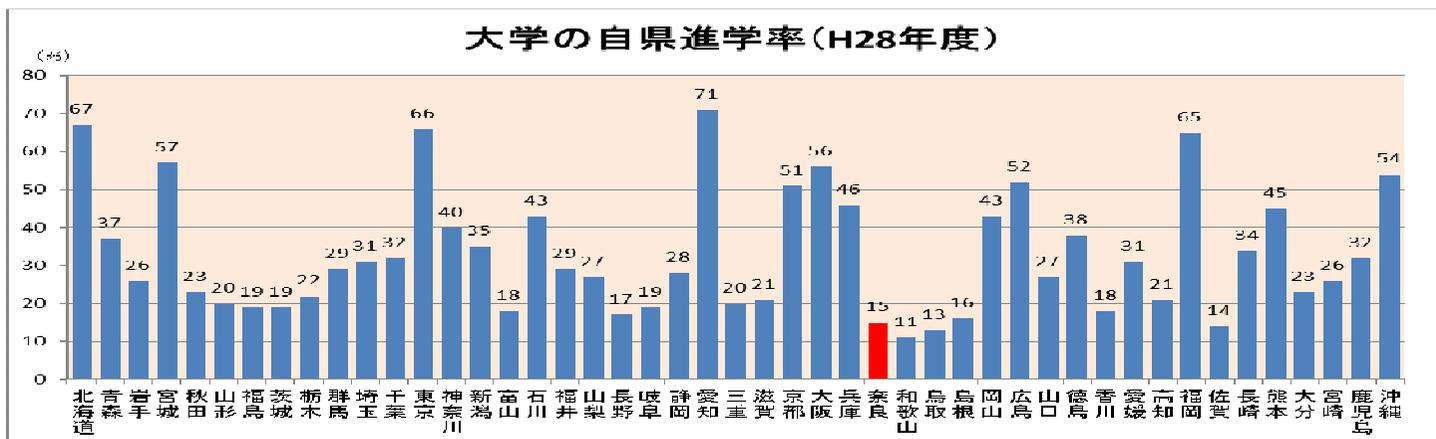
- 奈良女子大学生活環境学部
- 帝塚山大学現代生活学部

## 芸術

- 帝塚山大学現代生活学部

# 大学の自県進学率及び入学定員の増減率の状況

- ・大学入学時に当たる18歳・19歳の転出超過が大きく、高卒者の自県進学率は15%(全国ワースト4位、平成28年度学校基本統計)にとどまっている。
- ・こうした傾向を受け、入学定員の縮小傾向も顕著なものとなっている(平成14年度→平成27年度で▲10.9%。減少率は全国ワースト5位)。



# 奈良県の課題と大学との連携協定の取組

奈良県の諸課題への対応のため、大学との連携協定締結等により、取組を進めているが、対応すべき課題とのギャップがなお残る状況。

## 【 主な課題 】

### ○ 「学」と「職」の接続

- ・ 就学地と就業地をどのように一致させるのか
- ・ 学業と仕事の内容をどのように接続させるのか

### ○ 「学び」の場が不足

- ・ 県内に理工系学部を有している大学がない
- ・ 「学び直し」の機会を拡充することが必要

### ○ 企業活動への刺激

- ・ 新しい事業の創出や新技術の研究開発などを、企業と連携しどのように生み出すのか

ギャップ

## 【 連携協定による主な取組 】

### ○ 早稲田大学 (H20年12月締結)

- ◆ 吉野材を活かした木質空間デザイン提案 (H26~28年度)
- ◆ 小規模宿泊施設の魅力向上策提案 (H26年度)

### ○ 京都大学 (H26年4月締結)

- ◆ 「京大への架け橋」事業の展開 (H27年度~)
- ・ 連携校の生徒と京大教員・院生等との研究交流により、理系分野等の学びを促進

### ○ 近畿大学 (H28年9月締結)

- ◆ 「なら近大農法」の確立・展開 (H29年度~)
- ・ 農業参入のハードルを下げる「なら近大農法」を確立し、横展開により多様な担い手の参入を促進

## 【 県の主な取組 】

- ・ 大学生の「有給インターンシップ」を推進
- ・ 「なら食と農の魅力創造国際大学校(NAFIC)において「食と農のプロ」を育成 等

# 奈良県における大学の振興

奈良県の発展のため、県内に設置している国公立全ての大学に対し、県が求める内容や、このための大学のあり方・振興方策等について検討を進める。

## 【取組の方向性】

- ・ **オール奈良県という考え方を基に大学の振興に取り組む**
  - ・ 各産業分野における人材の育成とレベルアップ
  - ・ 「学び直し」の機会を求める社会人等への支援
  - ・ 高等教育機関間、産業界との連携体制の見直し・構築 など



## 【平成30年度取組】

- ・ **県全体（公私とも）を俯瞰した大学のあり方、振興方策等を検討**
  - ・ 検討結果は（仮称）奈良県高等教育・学術振興大綱として取りまとめ
  - ・ キックオフとして「高等教育機関の振興に関する懇談会」を2月開催